



自転車のサブスクサービスで 新たな文化と循環型社会の実現を目指す

【プロフィール】
福岡県生まれ。高校2年生の時に自転車競技に触れ、プロを目指して渡仏。クラブチームへの所属を経て、帰国後にプロ活動をスタート。マウンテンバイク日本代表として世界選手権にも出場。引退後、2019年に株式会社Bike is Lifeを設立した。

株式会社Bike is Life 代表取締役 山田 大五郎氏

“プロの目線”が見出した 自転車業界の課題と次なる可能性

自転車競技のプロが生み出す新たな事業が徐々に広がりを見せています。それがスポーツバイクのサブスクリプションサービス（以下サブスク）です。提供する自転車はデザイン性に優れ、安定した走破性と拡張性で初心者から経験者までさまざまなレベルに対応。福岡を中心に佐賀、大分、東京でサービスを展開しています。その仕掛け人が、株式会社Bike is Life（福岡市中央区大名）の代表取締役山田大五郎さん。山田さんは、マウンテンバイクの世界選手権などに出場した自転車競技の元プロ選手。これまでに培った経験を元に、サブスクで提供するオリジナルのスポーツバイクを開発しました。

「日本では安価な移動手段として使われる自転車ですが、海外では人気のスポーツですし、何より一般の人にもサイクリングやサイクルツーリズムを楽しむ文化が根付いています。そうした自転車文化を日本にも築きたいと考えて始めたのが自転車のサブスクです」と山田さん。とはいえ、創業当時はスポーツバイクの販売が中心だった同社。最初の100台を売り切ったところ、山田さんは販売という事業モデルに疑問を持ちはじめます。

「自転車を販売した後は、お客様とのつながりがほとんどありません。本来、自転車は長く使えるもので、20年、30年乗れる耐久性があるもの。しかしメンテナンスをしていなければ数年で傷み、結果的に乗れなくなって廃棄されてしまいます。そうすると本来環境に優しいはずの自転

車が、環境負荷になってしまうのです」。

事実、日本では、年間数万台という自転車が放置・廃棄されています。近年では特定の駐輪場間での移動ができるシェアサイクルが普及してきたものの、依然として自転車業界は販売が中心。そこで新しい選択肢として、サブスクを提案しました。「事業を広げる時に大切にしているのは、社会の課題を解決すること。自転車業界では、文化の拡大をはじめ、様々な課題が山積みです」と山田さん。

サブスクでは、自転車を貸し出されたユーザーが、自転車に些細な違和感や異常を感じたらスマートフォンアプリを通じて報告。するとスタッフが出向き、非対面でメンテナンスを行います。ユーザーは修理に出かける“手間”がなくなるため、自転車の放置や廃棄の抑制が期待されて



1



2



3



4

1 初心者から経験者まで広く楽しめるBike is Lifeのオリジナルスポーツバイク。安定した走破性とカスタムに対応できる拡張性が特徴

3 自転車スクールには福岡県全域から生徒が集まる。「ゆくゆくは自転車競技のプロチームの結成にも挑戦したい」と山田さん

2 Bike is Lifeの店舗はカフェとしても利用できる。自転車愛好家が集まる場所としてウェアやアクセサリの販売、レンタサイクル、イベントなども展開

4 新たな観光の形としても期待されるガイドサイクリング。ゆっくりと景観を楽しめることから、外国人旅行者からの人気も高い

います。

山田さんは「このサブスクによって自転車を好きになってもらえれば、購入後も大事に使ってもらえるようになるはず。それは業界にとっても素晴らしい影響をもたらします」と意気込みます。またサービスを利用するユーザーがもともと持っていた自転車は買い取り、アプリ内で使用できるポイントとして還元。まだ利用できるものは修理して自転車として再生させるほか、修理が難しいものは別の物として活用するリサイクルを推進し、サステナブルな社会の実現にも寄与しています。「海外では、すでに自転車は先進的な乗り物という認識になっています。日本でも徐々に注目され始めていて、自転車専用レーンが増えたり、福岡など一部地域では大手の検索エンジンのナビゲーションアプリで自転車のルートが選べたりするなど嬉しい動きもあります」。

体験型のサービスなども開発し 自転車の裾野を広げる

Bike is Lifeでは自転車文化を拡大するため、サブスクというハード面の整備だけでなく、ソフト面の開発にも積極

的に取り組んでいます。そのひとつが福岡と東京で実施しているガイドサイクリングです。スタッフがガイドをしながら観光名所などをめぐる約3時間半のツアー。外国人旅行者の参加が多いとのこと、その理由は「価値観」の違いにあるといいます。「海外では自転車で観光を楽しむサイクルツーリズムが定着しています。日本人には馴染みがないかもしれませんが、今後はもっと参加してもらいたい」と山田さん。ほかにも福岡市早良区ではカフェ併設の店舗、朝倉市では山田さんが監修したマウンテンバイクが楽しめるパークをオープンするなど、自転車好きが集まるコミュニティづくりにも力を入れています。特に、早良区の店舗は“自転車と暮らす”をコンセプトにしたマンションの1階に位置し、このコンセプト実現にも山田さんが協力。廊下やエレベーターなど共用部を自転車に合わせて設計しているほか、部屋の土間を大きくとって自転車を室内に保管できるようにしています。

そんな山田さんが注力しているもうひとつの取組みが次世代の育成です。未就学児から小中学生までを対象とした自転車のキッズスクールには県内外から

生徒が集まっています。「子どもに自転車を買ってもあつという間にサイズアウトして廃棄につながってしまうため、子ども用自転車のサブスクも行うことで良い循環ができています。生徒たちや保護者の自転車に対する理解が深まり、ゆくゆくは競技人口も増加する。それが業界全体の活性化につながるのではないかと肌で感じています。将来的には自転車のプロチームをつくりたい」と山田さんの夢は広がります。

自転車のサブスクという新たな事業形態を切り拓いてきたBike is Life。「ひとつの専門領域を突き詰めたからこそ見えてくる課題があり、解決するための人脈とアイデアが準備できると思います」と山田さんの挑戦は続きます。

取材日：10月16日

 **Bike is life.**

株式会社Bike is Life

〒810-0041 福岡市中央区大名2-12-6ビルF 2階
<https://bikeis.life/>